

BESIGN The Sustainable Design School への協定留学(交換留学)月例報告(6月分)

留学先大学: BESIGN The Sustainable Design School

氏名: 篠田 泰成



フランスデザイン留学の総評と振り返り。

このレポートを書くのも今回をもって最後となりました。

振り返ってみれば、本当に時の流れの速さに驚かされます。一年にも満たないフランス留学でしたが、数えきれないほどたくさんの経験をしました。

そのほとんどが日本では体験できない苦しさであり、辛さであり、また、楽しさでもあったことを今後、生涯において忘れることはないでしょう。

言語の違い、習慣の違い、食や暮らしの違い、気候の違い、コミュニケーションの違い、ルールの違い。

これら全ての環境が私を苦しめ、しかし、成長をさせてくれた要因です。

これは、留学に限ったことではありませんが、身の回りの環境の変化に対応しようと必死になっている瞬間が1番成長を感じるものですし、`生きている`と実感します。

私が日本で頑張ってきた大抵の努力というのは、正直やってもやらなくてもよかったものだ、錯覚するほどです。

学ばなければ生きていけない、成長しなければついていけないという環境に身を置いていたこの10ヶ月間で何をしたかといえば、私はフランスで必死に生きていたのです。



さて、私が留学のおかげだと感じている個人的な成果といえば、進路について考える時間がしっかりと確保できたことでしょうか。

現在の私は、3年前期で大学を休学しており、留学期間を経て、帰国後、3年後期から復学する運びになっています。つまり、本来であればいわゆる就学生なのです。そしてちょうど留学前、あるいはもっと前に自分について少し考えたことがありました。もちろん将来のこと。

何がしたいんだろう、わたしは。

何が得意なんだろう、わたしは。

何が大事なんだろう、わたしは。

何が欲しいんだろう、わたしは。

そんな、曇天のような毎日が頭上に浮かんで雨を降らし、薄暗い空気の中で、空の碧さを実感するにはあまりに遠すぎました。

そんなわたしにとって、この留学というのは、これ以上ない`都合`だったのです。元の環境を離れ、何もかもがぼんやりとした新しい環境の中で、唯一はっきりと見えたものが自分自身でした。

暗闇の中で唯一照らされていたものは、ほかでもない自分自身だったのです。

あえてレトリック抜きで割り切るならば、例えば就活の方向性を考えるだとか、進路決定だとか、企業や自己の分析とかポートフォリオ制作とか。これらすべてを実施するのに、あるいはこれらに時間と意識を消費することに対して、完璧な合理がとれていた。理由を探すご都合主義というよりご都合そのものだったのです。

まるで大学受験の目的が、第一志望に合格することではなく、入学後の大学生活であったように。わたしの目には常に帰国後の生活がその奥に見えていました。つまり、この海外留学は日本に帰国するためのとても長い準備期間だったといえます。

私にとって帰国を見越して出国することは、成長を見越して休学することだったというわけです。

10ヶ月という時の流れはあまりにも速く、得たものは多く、そして大きい。速すぎて、違いすぎて、頭がついていけない、そんな時の流れをなんとか生き抜いた、わたしには実に大きな成長があったはずです。振り返ってみれば、10ヶ月前の自分は遙か遠くに見えます。10ヶ月は本当にあっという間だったけれど、そんな短い間にこれだけ大きな成長と変化があったのだと驚いているのです。そして、この成長を感じられるのはやはり帰国後でしょう。

だから、わたしは帰国後の自分が楽しみで仕方がないです。

最後に、この留学をして良かった心から思います。

こんな素晴らしい経験を与え、支えて下さった皆様に心より御礼申し上げます。

これにて、私のフランス留学は笑顔で閉幕です。